

バンダイこどもアンケートレポート Vol.229

「小中学生の勉強に関する意識調査」結果

- TOPIC①:** 小中学生の好きな教科・苦手な教科共に総合第1位は「算数/数学」!
 小学生には「図画工作」や「音楽」など座学以外の教科も人気
 中学生には数学に次いで、「社会」や「理科」が人気の傾向に
 小中学生の苦手な教科総合第2位は「国語」
- TOPIC②:** 普段、学校以外で勉強している場所は、小学生は「自宅のリビング・ダイニング」派が多数
 中学生は、「自分の部屋」や「塾」での学習の割合が増加
- TOPIC③:** 先生になってほしい有名人 小学生・中学生の総合第1位は「林修」!
 小学生は「ドラえもん」など親しみのあるキャラクターがランクイン
 中学生は「池上彰」などテレビでわかりやすく教えてくれる人物が上位に
- 総括** : バンダイからのコメント

株式会社バンダイ(代表取締役社長:川口勝、本社:東京都台東区)は、小学1年生～中学3年生の子どもを持つ親(子どもと一緒に回答できる方)900人を対象に、「小中学生の勉強に関する意識調査」を実施しました。調査結果を以下の通り発表いたします。(実査期間 2016年7月8日(金)～7月10日(日))

- TOPIC①:** 小中学生の好きな教科・苦手な教科共に総合第1位は「算数/数学」!
 小学生には「図画工作」や「音楽」など座学以外の教科も人気
 中学生には数学に次いで、「社会」や「理科」が人気の傾向に
 小中学生の苦手な教科総合第2位は「国語」

【小中学生の好きな教科・苦手な教科】(複数回答)

小中学生総合TOP5					
好きな教科			苦手な教科		
1位	算数/数学	28.9%	1位	算数/数学	24.8%
2位	図画工作/美術	22.1%	2位	国語	22.2%
3位	体育/保健体育	20.2%	3位	体育/保健体育	11.0%
4位	音楽	19.8%	4位	社会	9.3%
5位	国語	18.3%	5位	英語(外国語活動)	6.4%
他	特にない	19.0%	他	特にない	31.4%

※各教科、対象学齢にのみ聴取
 【以下、対象学齢が限定されている教科】
 ・生活→小学2年生以下
 ・社会、理科、総合→小学3年生以上
 ・家庭/技術/家庭、英語(外国語活動)
 →小学5年生以上

小学生総合TOP5					
好きな教科			苦手な教科		
1位	算数/数学	30.7%	1位	算数/数学	23.7%
2位	図画工作/美術	27.3%	2位	国語	23.5%
3位	音楽	24.5%	3位	体育/保健体育	11.3%
4位	体育/保健体育	24.0%	4位	社会	6.3%
5位	国語	21.2%	5位	音楽	4.5%
他	特にない	15.8%	他	特にない	34.7%

中学生総合TOP5					
好きな教科			苦手な教科		
1位	算数/数学	25.3%	1位	算数/数学	27.0%
2位	社会	18.7%	2位	国語	19.7%
3位	理科	15.0%	3位	英語(外国語活動)	15.7%
4位	英語(外国語活動)	13.7%	4位	社会	15.3%
5位	体育/保健体育	12.7%	5位	体育/保健体育	10.3%
他	特にない	25.3%	他	特にない	25.0%

小中学生を対象に好きな教科・苦手な教科を聞いたところ、小中学生共に、好きな教科・苦手な教科の第1位は「算数/数学」となりました。「算数/数学」が“好き”と回答した理由について聞いたところ、「計算が好き・得意だから」という声があがった一方、“苦手”と回答した理由としても「計算が苦手・嫌いだから」という声があがり、「計算」が好きと苦手の分岐点となっていることがうかがえます。

小中学生共に苦手な教科第2位は「国語」となりました。“苦手”と回答した理由について聞いたところ、「漢字が嫌いだから」、「読解問題が苦手だから」など、文章の読み解きに苦手意識を持っていることが読み取れます。

好きな教科を小学生・中学生別にみると、小学生は、「図画工作」、「音楽」など座学以外の教科がTOP3にランクインしている一方で、中学生では「社会」、「理科」がランクインしました。中学生は考察することを必要とする教科に人気が集まったと推察されます。

苦手な教科については、小学生TOP3には第1位の「算数」に次いで、「国語」、「体育/保健体育」があげられ、中学生TOP3では「数学」に次いで「国語」、「英語」という結果になりました。

好きな教科・苦手な教科を男女別にみると、男子は好きな教科として「算数/数学」、「理科」が人気で、苦手な教科として小中学生共に「国語」が第1位となっていることから、文系教科よりも理系教科を好む傾向にあることが推察されます。女子は好きな教科に全体結果と大きな傾向の違いは見られなかったものの、苦手な教科については、第1位「算数/数学」となり、小学生第2位、中学生第3位となった男子とは異なり、「算数/数学」に対して苦手意識が強いことがうかがえます。(詳細は4頁、参考資料①参照)

TOPIC②: 普段、学校以外で勉強している場所は、小学生は「自宅のリビング・ダイニング」派が多数 中学生は、集中できる「自分の部屋」や「塾」での学習の割合が増加

【普段、学校以外で勉強している場所】(単一回答)

小中学生総合TOP3		
1位	自宅のリビング・ダイニング	53.7%
2位	自分の部屋	25.0%
3位	塾	6.4%
小学生TOP3		
1位	自宅のリビング・ダイニング	64.2%
2位	自分の部屋	17.7%
3位	塾	3.5%
中学生TOP3		
1位	自分の部屋	39.7%
2位	自宅のリビング・ダイニング	32.7%
3位	塾	12.3%

普段、学校以外で勉強している場所についてお子さんに聞いたところ、「自宅のリビング・ダイニング」(53.7%)、次いで「自分の部屋」(25.0%)、「塾」(6.4%)という結果になりました。家族が集まるリビングで、宿題や勉強を行うリビング学習が人気になっていると言われる現代、実際に全体の約半数が「自宅のリビング・ダイニング」で勉強しているという実態がうかがえます。

小学生・中学生別に見てみると、小学生では全体の過半数を上回る64.2%が「自宅のリビング・ダイニング」で学習していることがわかり、その理由として「両親や兄弟に勉強を教えてもらうから」、「安心するから」などコミュニケーションがとれる環境での勉強が支持されている結果となりました。中学生になると、「自分の部屋」(39.7%)、また「塾」(12.3%)の回答が小学生よりも高い結果となりました。「自分の部屋」、「塾」と回答した理由の多くは、「1人で集中できるから」、「静かだから」など、集中できる環境を求めていることがうかがえます。

小学生と比較するとポイント数は下がるものの、中学生にも「自宅のリビング・ダイニング」(32.7%)での勉強も支持されており、リビング学習が浸透していることが読み取れます。

TOPIC③：先生になってほしい有名人 小学生・中学生の総合第1位は「林修」！
小学生は「ドラえもん」など親しみのあるキャラクターがランクイン
中学生は「池上彰」などテレビでわかりやすく教えてくれる人物が上位に

【先生になってほしい有名人(タレント、キャラクター含む)】(単一回答)

小中学生総合TOP5		
1位	林修	35人
2位	ドラえもん	27人
3位	櫻井翔(嵐)	26人
4位	松岡修造	14人
5位	嵐(グループでランクイン)	12人

小学生TOP5		
1位	ドラえもん	24人
2位	林修	20人
3位	櫻井翔(嵐)	16人
4位	嵐(グループでランクイン)	9人
5位	江戸川コナン(名探偵コナン)	8人
	ヒカキン	
	ふなっしー	
	松岡修造	

中学生TOP5		
1位	林修	15人
2位	櫻井翔(嵐)	10人
3位	池上彰	8人
4位	松岡修造	6人
5位	イチロー	4人
	宇治原史規(ロザン)	
	殺せんせー(暗殺教室)	
	タモリ	

小中学生に先生になってほしい有名人(タレント、キャラクター含む)を聞いたところ、塾講師で、現在テレビなどでも活躍している「**林修さん**」が総合第1位という結果になりました。総合第2位には国民的人気キャラクター「**ドラえもん**」がランクイン。次いで、アイドルグループ「嵐」のメンバーで、バラエティからキャスターまでマルチに活躍する「**櫻井翔さん**」が第3位となりました。

1位となった「林修さん」を選んだ理由について聞いてみると、「**わかりやすく教えてくれそう**」、「**いろいろなことを知っているから**」など、テレビでわかりやすく説明をしている姿や、知識の広さに期待を寄せていることがうかがえます。2位の「ドラえもん」を選んだ理由については、「**面白く教えてくれそう**」、「**助けてくれそう**」などの声があがりました。

小学生・中学生別にみみると、小学生TOP3には第1位の「ドラえもん」に加え「**林修さん**」、「嵐」の「**櫻井翔さん**」がランクイン。4位以降はグループの「嵐」に続き、「ふなっしー」などのキャラクターがランクインしている一方で、中学生TOP3には、「**林修さん**」、「**池上彰さん**」がランクインしており、小学生と中学生では先生に求めるポイントが、**親しみやすさから話のわかりやすさへ**と変化していることが読み取れます。

【バンダイからのコメント】

今回実施した「勉強に関する意識調査」では、小中学生共に、好きな教科も苦手な教科も「算数/数学」という結果となり、好きな理由・苦手な理由どちらにも「計算」というキーワードがあがりました。また、小中学生総合で好きな教科5位、苦手な教科2位となった「国語」は、好きな理由・苦手な理由どちらにも「漢字」というキーワードが上がり、どの教科でも「基本」を制することが、子どもがその教科を好きになれる分岐のポイントなのだと感じました。

また、「好きな教科」が「特にない」と回答した割合は小学生よりも中学生の割合が高く、「苦手な教科」が「特にない」という回答は、小学生よりも中学生の割合が低くなっており、学齢が上がるにつれ、社会や英語など新しく難しい教科が増えることで勉強への苦手意識が徐々に高まっていく様子を感じられました。

そして、普段学校以外で勉強している場所については、小学生では自宅のリビング・ダイニングが多く、コミュニケーションのとれる環境での勉強が親子共に支持されていることがわかり、近頃人気といわれる「リビング学習」の浸透とメリットを感じられる結果となりました。

なお、教材もデジタル化が進んでいる現代ですが、「いつも使用している教材」を聞いたところ、学校の教科書や市販や塾の問題集、辞書など、紙の教材が過半数から支持されている結果となりました(詳細は5頁、参考資料②参照)。また、その中で「最も使いやすい教材」でも同じく紙の教材が圧倒的な支持を受けており、子どもたちが昔と変わらず紙や鉛筆などを使って勉強している様子を読み取ることができました。

■調査概要

- 【調査目的】 勉強に関する意識を探る
- 【調査地域】 全国
- 【対象者条件】 小学1年生～中学3年生の子どもを持つ親 ※子どもと一緒に回答できる方
- 【調査手法】 インターネット調査(協力:株式会社クロス・マーケティング)
- 【実査期間】 2016年7月8日(金)～7月10日(日)
- 【サンプル数】 900人
- 【構成】

	小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生
男子	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
女子	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人

参考資料①

【小中学生男女別 好きな教科】(複数回答)

男子の「算数/数学」を好きという回答割合は女子より高い。

男子小学生			女子小学生		
好きな教科			好きな教科		
1位	算数	38.7%	1位	音楽	37.7%
2位	体育/保健体育	25.0%	2位	図画工作/美術	33.3%
3位	図画工作/美術	21.3%	3位	国語	28.3%
男子中学生			女子中学生		
好きな教科			好きな教科		
1位	数学	28.7%	1位	数学	22.0%
2位	理科	18.7%	2位	英語	20.0%
3位	社会	18.0%	3位	社会	19.3%

※【回答対象者】社会・理科は小学3年生以上 英語は小学5年生以上

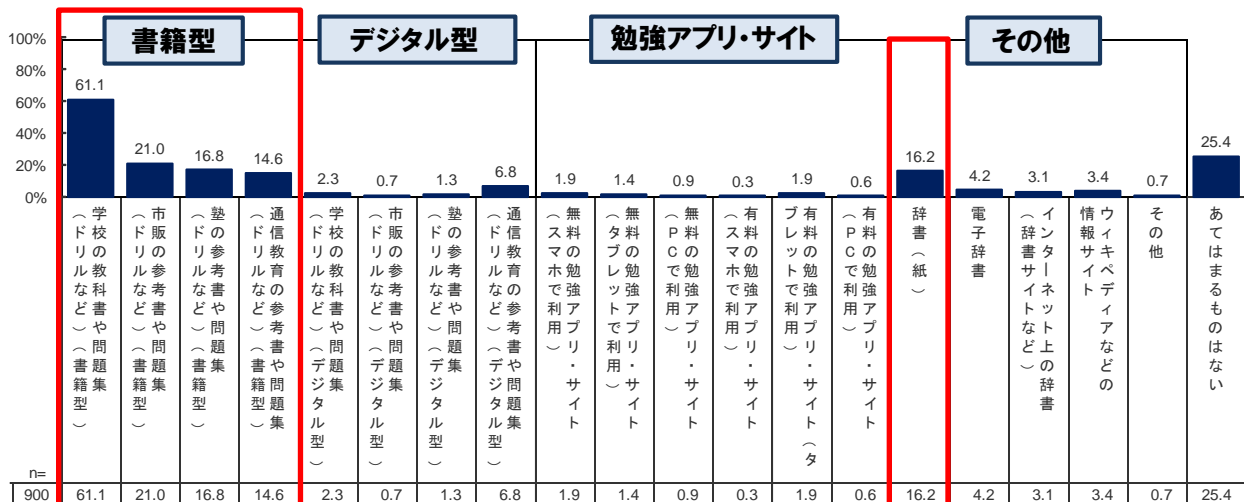
【小中学生男女別 苦手な教科】(複数回答)

男子は苦手な教科として「国語」をあげている割合が多く、女子は「算数/数学」をあげている割合が多い。

男子小学生			女子小学生		
苦手な教科			苦手な教科		
1位	国語	31.0%	1位	算数	30.3%
2位	算数	17.0%	2位	国語	16.0%
3位	体育/保健体育	8.7%	3位	体育/保健体育	14.0%
男子中学生			女子中学生		
苦手な教科			苦手な教科		
1位	国語	28.7%	1位	数学	35.3%
2位	英語	19.3%	2位	社会	17.3%
3位	数学	18.7%	3位	体育/保健体育	12.7%

※【回答対象者】社会・理科は小学3年生以上 英語は小学5年生以上

参考資料②【小中学生が普段使っている教材】（複数回答）



子どもアンケートホームページ: <http://www.bandai.co.jp/kodomo/>

バンダイホームページ: <http://www.bandai.co.jp/>